# 新年初祈祷のご案内 ◎初穂料 二万円より志(お酒二升をお供一、職場安全・商業繁栄祈願等

第23号



昭和五十七年生

商業繁栄祈願

· 初宮詣 安産祈願

その 被・身祝祈祷はお酒・鏡餅等おれれ料 五千円より志 他諸祈願

祈祷時間 元旦 午前〇時(|番神楽)~午後五時/二日以降 午前九時~午後五時

二万円より志(お酒二升をお供え下さい)

一、厄年被

人祈

年も射水の大神様のご加護を頂かれ に稲穂がたわわに稔り、 を基に覆刻を致しました。 題を見やすくご紹介すべく、 皆様方にとって、今年平成二十七 また表紙右上段の社紋は、

まさに二上 神鏡の中

心よりご祈念申し上げます 幸多き年とならむことを衷

謹みて初春のお慶びを申し

ジ増の編集とさせて頂きました。 宴会場(饗膳殿)リニーアルなど、 多くの祭典・事業が執り行われまし わる諸祭典、神宮よりの鳥居の拝 今号は皆様に多くの話

越中総鎮守一宮

### 射水神

Eメール info@imizujinjya.or.jp

# 0 挨

# すめみまの大御心を靖んじ奉るために 射水神社宮司 松 本 正

昭



うござい しておめでと 新年明けま ま

年の年頭にあ たり、謹んで 平成二十七

力・ご理解を戴いておりますこと、深く御 常日頃、当神社の事につきましてご協 繁栄・ご多幸を祈念申し上げます。

皇室の弥栄と崇敬奉賛会・崇敬者各位のご

先は、 千三百四十年前に朝廷よりの奉幣に与って 社となりました。正史によれば、今より を崇めるようになりました。日本の国家統 をいだいて、射水神社の御祭神「二上神」 生活の中から越中文化を育み、次第に信仰 れて農耕に励んできました。そして、その く住みつき、二上山と射水川の自然に恵ま 一が進むに伴い、当神社は国家の尊崇の対 さて、 悠久の昔から、二上の地にいち早て、富山県に生まれ育った我々の祖 やがて越中最貴、唯一の名神大

> 今や神社と公園は人々の "心の拠り所"と 園として、公園条令により公園に指定され 年の年を迎えます。また高岡城跡が古城公 の憩いの場である高岡城跡の高岡古城公園 して不可分の存在となっています。 の史跡に認可を受ける見通しであります。 てより、同じく百四十年を迎え、今春、国 に当神社が遷座されて以来、百四十年の式 さらに本年は、 心を和ませ、高岡市民をはじめ、県民 四季折々に彩りを醸し出

開業し、多くの人の流れが期待されてい今年三月には待望された北陸新幹線が 念奉納行事など、三日間に亘り賑々しく斎 年に一度の式年大祭を控えており、 ます。折しも、当神社では、今年九月に十 行を予定しております。 の神輿渡御を中心とし、奉祝大祭、奉祝記 大神様の由縁の地であります二上山へ とりわ

宮」が執り行われました。昨年十一月十一 り』とも言うべき「第六十二回神宮式年遷 神宝のすべてを二十年に一度一新し、より いっそうの神様のお力を戴き、 しみ奉る伊勢の神宮では、御社殿や御装束 又、一昨年、私たち日本人が総氏神と親 『日本の甦

> 建を致す予定であります。 居の復元として、今春までに参道中程に再 なった外宮板垣北御門の鳥居を拝受致し、日、この度の式年遷宮で譲与されることに かねて当社に存在していた大嘗宮御下賜鳥 この度の式年遷宮で譲与されることと

に伴い、 供します。 近くの翼廊に移設し、昇殿参拝者の利用に 舎水鉢(木舟町奉納、朋信社周旋)を本殿 そして、 いささか狭小となった境内の手水 記念事業として、 参拝者の増加

祭並びに地鎮祭を執り行い、諸事準備を進十一月十三日に記念事業起工奉告安全祈願 家の意見を交え、鋭意、検討を進め、 和のとれた神明造りの殿舎とすべく、 神木の紅梅の傍に本殿や拝殿など神域と調 めております 境内の手水舎につきましては、新たに御

微少な生命を以て廻転する大地の音さえ聴 たり、神意を恢弘したりは出来ません き得ぬ愚鈍を以て、十年後の変化を予測し 我々は、天地自然の中に生かされている

世の中の平らぎに捧げることが神意にも副 命であると神職一同日々努めております い、すめみまの大御心を靖んじ奉るのが使 しかし、唯一身に具有する精根を傾けて

敬奉賛会が企画しました諸事業に協賛・ご 理解を賜りますようお願い申し上げます。 結びに、この度の式年大祭にむけて、

# 街の発展を映す鏡



橘 慶

えになったことと存じます。お揃いで清々しい新春をお迎 ございます。皆様にはご家族 昨年、平成二十六年は、 新年明けましておめでとう

長

ととお慶び申し上げます。

年に亘り、 正昭宮司のもと、新たな前進にも、穴田甚朗新会長、松本 を誓い合ったところです。 全うされました。 誉会長が百歳を超える天寿を 来られた綿貫武崇敬奉賛会名 明けて二十七年は、 、穴田甚朗新会長、松本されました。寂しさの中 当神社に尽くして 北陸

迎えます。荻布精一実行委員 新幹線開業と時を同じくし 長始め皆さんの篤志により の御遷座百四十年の節目を 山麓への御鎮座 高岡城本丸跡

> りたいと思います。 念事業を意義深く挙行して参 予定される式年大祭並びに記九月二十三日(秋分の日)に

祭を無事斎行致しました。 で伊勢に参宮して材を受け取 本宮司、穴田会長ほか関係者 譲与をお認め頂き、早速、 神宮外宮の板垣北御門 (鳥居) 書を提出しました。この程、 年遷宮時の古材払い下げの願 けて、神宮司庁に伊勢神宮式 つて存在した鳥居の復元に向 なかでも、神社拝殿前にか 次いで起工奉告安全祈願 松

盛は、 らなる御神威の発揚に務めて 業を通じて御神徳に報い、さす鏡でもあります。一連の事 公園に所存する射水神社の隆 高岡の鎮守の杜である古城 すなわち街の発展を映

年頭のご挨拶と致します。のご健勝をお祈り申し上げ、 高岡の町々里々の弥栄と皆様 県、 また、

# 式年大祭の大盛会を願って



族お揃いで新春をお迎えのこ ございます。皆様方にはご家 新年明けましておめでとう 穴田甚朗

任ぜられ、早いもので一年に綿貫武殿の後任として会長に 年もよろしくお願い致します。 誠に有難うございます。 格別のご指導、 本宮司や神社関係の皆様には 会役員、会員各位ならびに松 橘慶一郎総裁はじめ崇敬奉賛 なろうとしています。この間、 賛会臨時総会におきまして、 昨年二月、射水神社崇敬奉 ご支援を賜わり 何卒本

という節目の年を迎え、 古城の杜へ遷座され百四十年 千三百四十 さて、射水神社は今年鎮座 二上の地から

> 徳に報いる為、 準備を進めております。 大祭実行委員会」を立ち上げ 一昨年「式年

衷心より感謝申し上げます。 両面にわたりご協力を賜わり、 移転新築などを計画致しまし 行い、記念事業として手水舎の 神輿渡御等の奉祝行事を執り 二十一日から三日間にわたり、 くの崇敬者、市民の皆様に物心 た。崇敬奉賛会会員はじめ多 式年大祭・慶賀祭・稚児社参や 九月十六日に御遷座当日祭、

は拝殿手前に立派な鳥居が建ることになり、今年の春頃にとなった外宮の鳥居を拝受す 立します。 勢神宮の式年遷宮により古材 さらに喜ばしいことに、伊

て国史跡に指定されます いよいよ北陸新幹線が開業 古城公園は高岡城址とし

崇敬奉賛会各位の弥栄を祈念 が益々発展致しますとともに かに全県下はもとより、 射水神社の御神威もあらた ご挨拶と致します

# — 起工奉告安全祈願祭。地鎮祭を斎行

を奉祝する記念事業がいよいよ始まりま平成二十七年秋に斎行される式年大祭



神をお招きし、敷地清祓と散供の後、

会長が草刈初、穿初として日本建築工をお招きし、敷地清祓と散供の後、穴地鎮祭では神籬に射水大神と大地主大



ぞれ奉仕しました。

社が鋤入れ、

宮司が鎮物埋納の

儀をそれ

芸設計事務所が鍬入れ、

森田建設株式会

田会長が草刈初、

の人像、 岸の〝清砂〞が越中国の東西域として崇越しに立山連峰が望まれる氷見市小境海 敬者よりそれぞれ献納されました。 より採取された〝五色の小石〟町のヒスイ海岸と称される宮崎 当社が越中総鎮守一宮との故により、 「日本の渚百選」でもある下新川郡朝日 特に「鎮物」の桐箱内には、 鏡、刀子、鉾、 盾』等とともに、 ″金属製 また海 境海岸

新手水舎完成予想図



境内の新手水舎予定地の幄舎内にて地鎮

がそれぞれ斎行されました。

事業起工奉告安全祈願祭が、 にあたる各業者が参列し、

引き続き、 殿にて記念 一月十三日

崇敬奉賛会役員、

施工

社

埋納された鎮物

草刈初を行う穴田会長



鎮物を埋納する宮司



第一鳥居の復元 伊勢の神宮より譲与

前に建造されて、具属として拝殿鳥居一基が第一鳥居として拝殿

殿前に檜製の鳥居が再建される こととなりました。 記録によれば、 式年大祭の記念事業として社

業として、

平成二十五

12

このたびの式年大祭記念

昭和四年、 位の礼、 和天皇即

宮式年遷宮により、

このたび

とに斎行された第六

-二回神 一賛のも 年秋

勢の神宮で国民総奉

大嘗祭に 豊受大神宮板垣北御門を特別

譲

与戴けることとなりまし

この

奥に位置 御正宮の 朝夕大御 別

心となる

御門は中 旗

居です。 て御饌殿へと通じる唯 0

井副実 にて御垣 御神楽を奉奏致しました。 案内頂き、神楽殿にて奉賽の 神宮 表行委員長が参宮。 荻布実行委員長、 禰宜 により神域内をご 別参拝 の後、 外 立 亀 宮野田

装飾致しました。 物市場、 て古 持参の菊花御紋の社名旗、 その後、 運転席には特別に奉 御幕とともに、 材を譲与頂き、 献納された高張提灯で 高岡青果市場よりそ 議与頂き、当社より 神宮山田工作所に 高岡水産 製 され

であっ 居前を起点とする国道 へと向かいました。戦前は皇の総氏神と尊崇する皇大神宮 である豊受大神宮 は衣食住全ての産業の守り神 た射水神符を奉斎し、 神都伊勢より た宇治橋前 を御用 から日 御用 一号線 0 材 本 材

### 古儀 復興

鳥

# 雌雄の鮭を両宮へ献納

厨の由緒の重要性をうかがわせ 挙げられている。これは伊水御厨が 挙がられている。これは伊水御厨が 贄鮭百、 建久三年 どの関りの古儀復興としていみことから、伊勢の神宮と越中国 神宮領と当社の関連についても記載によれば、射水郡内の伊勢 進した「伊水御厨内」と記載さ ることである」と記されている す。『富山県史』通史編Ⅱ中世 れていることに由来するもので 注文」皇太神宮建久已下古文書 に所蔵される「伊勢大神宮神領 納されました。これは神宮文庫 様に内宮の神楽殿にそれぞれ献 産の雌雄一対 鳥居譲与に際し、 源頼朝が鎌倉幕府を開い 生鮭百五十隻」を供 (一一九二) 八月 の生 が外宮と同 御 0 た

# 新嘗祭

日」)を執り行い 在は国民の祝日「勤労感謝の 大祭の一つである新嘗祭(現 この祭典は、 月二十三日 今年の五穀豊 ました。 当神社

ます。 宮、 りで、宮中では天皇陛下御親穣・生業繁栄に感謝するお祭 ら新穀を奉られます。 当日は新 全国の神社でも斎行される穀を奉られます。また神 穀・

室の御安泰と崇敬者各位の更の幸・山の幸が供えられ、皇当日は新穀・神酒・餅・海 なる弥栄が祈念されました。

祭

事

暦

(下半期)



8

七夕短

冊

||焼納祭

大相撲高岡場所 安全祈願祭

「豊栄の舞」を奉奏

8 月 27 日

諏訪社例祭

月16日

土俵祭

9月16日

秋季大祭

9 月 22 日

日吉社秋祭

秋高 季 岡市護国 大祭 神社

支部神職の奉仕によって斎行の参列を賜わり、高岡・新湊 されました。 の参列を賜わり、高岡・新湊慰霊会会長・ご遺族の皆様方 月二十二日に献幣使・

三五七六柱のご英霊の御霊を として崇敬され、 りも絶えず、″高岡の守り神 お祀りしており、 座されている護国 高岡城二の 朝夕のお参 親しまれて [神社は、 椿山に鎮



祓いを受ける奉仕神職

の手掛り る出石城下を散策しました。 参加者一 ッを得つつ、 同は、

故郷発展へ

社しました。

日本三景の1つ、天の橋立を背景に



## 奥の 御前で 秋祭り

10

11 月 30 日

9月28日

院内社秋祭

月23日

秋季皇霊祭

10月7日・8日

七五三まつり 月1日~

崇敬奉替会研修旅行

吉社を指します。 の二上 の二上山頂に鎮座される日「奥の御前」とは、二七四

10 月 22 日

高岡市護国神社

秋季例大祭

神嘗祭選拝•奉祝祭

りを斎行しました。 吹く秋空のもと、 九月二十二日、 恒例の秋祭 爽やかな風

11

月

13

日

月3日

明治祭

並びに地鎮祭安全祈願祭

まず、 その周辺を清掃、祭典で 巫女による「末広の舞」 登拝者の皆様と祠

づいていることを感じた次第わることのない尊崇の念が息二上山に鎮まる神々への変 が奉奏されました。

12 月 22 日

11 月 23 日

新嘗祭

12 月 25 日

煤拂祭

神符守札奉製入魂祭

12 月 23 日

天長祭 冬至祭



12 月 31 日

除夜祭

月 29 日

年越大祓

毎月1日

23 日

月次祭朔日祭

です。

「末広の舞」を奉奏

七夕短冊燒納祭

社で七夕短冊焼納祭が斎行さ たって行われ、最終日に当神は、八月一日より七日間にわ れました。 やかに彩る「高岡七夕まつり」 大小様々な飾りが街中を華

は市内の園児たちが星形の短年より新たに始められ、当日このお祭りは、平成二十四 に元気な声で童謡「たなばた 冊に 〃願い〃 さま」を神様に奉納しました。 を込め、笹を手 当日四

## 大相撲高岡 安全を祈願 0

社にて執り行われました。 関係者各位ご参列のもと、 岡場所の安全祈願祭は、 開業記念として開催された高 国技である大相撲の秋巡 北陸新幹線「新高岡駅」 実行委員会会長はじめ、 八月 当

笹を手に、元気に「たなばたさま」を奉唱

の園は」 りは、 まれる創作 れました。 併せて、伏木相撲甚句会よ 「鳳凰 鳴くかや 「射水の杜に」 :相撲甚句が奉納さ と 古 城



創作相撲甚句を奉納・披露する歌い手

第五

崇敬奉賛会研修旅行

恒例

の研修旅行

は、

趣の異なる大小さまざまなバンケットには、 少人数でのお食事会から大人数での披露宴まで 様々なニーズに対応できます。 和装はもちろん、洋装も映える シックな内装の披露宴会場は、 "お二人の最高の1日"を演出します。





披露宴会場のすぐ横には ブライズルーム。 お色直しや、撮影スポットと しても最適。

塚村條松 林谷岡 俊文直庄剛慎大祐 安美子佳子ぶ子称

大上中能釣高関広神 小米本清釣黑白長

藤谷髙四手寺松大駒中浦金北稲竹大太表金舟高竹 霜 沖大久小宮紫谷仲茅 岡口澤川林石本田田山田谷川垣内石田 城木塚内 崎谷保尾林藤内谷原 将寬鉄孝昌達敏巧智 美 瞳 利 優 ゆ 乃 希子美子尋 子恵佳美見恵絵 子み子利奈

組子「麻の葉」を使った照明を取り入れ 柔らかな空間を造り出します。



表情豊かな庭園を望むホワイエと和と洋が融合した披露宴会場は 上質で洗練され、大切なゲストをおもてなしします。



中庭を望むロビーは 自然光が降り注ぐ開放的な場所。

に渡される特別な



かされた看板。



グラ

Z

9 射水

# ふるさり

## ②式年大祭斎行のこと (その一

との午 諏訪大社は七年ごとの寅もしく 鳥時代の持統天皇四年(六九〇 ている式年の祭祀である。また、 な祭であり、約千三百年前の飛 り戴くという、 り替えて、神さまに新宮へお遷 て替え、御装束神宝も新たに造 宮は、二十年に一度、 の遷御の儀が行われた。 とに行われる祭祀のことである。 行っており、 伊勢の神宮では、 式年祭とは、 から、 の年に御柱祭が行われ、 -の年に、 香取神宮でも十二年ご 第六十二回式年遷宮 連綿として斎行され 式年祭はたいへん 決められた期間ご 神宮で最も重要 盛大な神幸祭を 平成二十五 社殿を建 式年遷 鹿

> 大規模で、 といえる。 重視されている祭り

翌十五年五月に再建。 拝殿が大雪の為に倒壊するが、 十六日、高岡城本丸跡の現在地中社に列格され、明治八年九月中社に明格され、明治八年九月 中社に列格され、 に御遷座された。 同十四年一 月

という幾多の行き詰まり

の国情

た。

同五十

年には百年祭が斎行され

本殿、 焼失。同三十五年八月三十日に尽くした高岡大火により社殿が ていた二上元宮への神幸の儀も て盛大に挙行された。 の檜垣富山県知事を会長に推 この年初めて執り行われた。時 が斎行され、遷座後長く途絶え が竣工し、 二十七日、 Ļ 大正二年には、 しか 各郡市長を幹事として極め 拝殿、神饌所、 市街地の六割を焼き 十月十三日御遷宮祭 同三十三年 社務所等 · 六 月

遷座四十年祭が斎行された。 長となり、 事を総裁に、 また、 大正天皇の御大典記念 、全県下協賛のもとにに、鳥山高岡市長が会年には、浜田富山県知

事業として市民有志等が高岡献

年十二月に能楽殿が落成した。 楽會を組織し、 んとして寄付金を募り、 能楽殿を設立 大正

は、 が起こり、国家多難、民心悪化は、時恰も、前年に関東大震災大正十三年の遷座五十年祭 が起こり、

され、 の中、 こそ我が国運進展の第 上大神の御神徳の宣揚 る射水神社 意識の甦りが余儀なく 越中国総氏神た 再び建国創世の の御祭神二

おき、 大祭が斎行された。 織され高岡全市に委員 全県下に亘って役員を 岡市長を会長に推し、 知事を総裁に、上埜高 を始め厳粛盛大な記念 が高まり、 一義体であるとの機運 遷座五十

三日間に亘り、神幸祭を設け、官民一致して して、 別に奉賛会が組 宮司高野義太郎 伊東富山県 年を記念

> 四せ かにされ、『射·氏が創建以来のi 纂刊行された。 由

『射水神社誌』が 編

年祭、同三十九年に九十年祭、その後、昭和二十九年に八-

緒沿革を明ら



神幸の儀(右奥に神輿、騎馬は館哲二会長[元県知事])

### 射水神社社務所 ☎0766-22-3104

## お問合せ

明るさ、 申し上げます また、

奉納賜りますよう お願い

院会員、日展顧問、光風会常モ聖で、平成十九年には、旭日中綬章を受章。日本芸析す。「群鶏の画家」として知られる洋画檀の重鎮身。「群鶏の画家」として知られる洋画檀の重鎮

田を受ける日本芸術の一個では、日本芸術の一年の重鎮の一年の一番は、日本芸術の一番は、日本芸術の一番により、日本芸術の一般により、日本芸術

## 献 灯 提灯 ご奉納 の お

1)

納

園内に提灯を掲げ、一折、御社頭、高岡古 折、御社頭、年間を通して ご参拝 しく参拝者のみなさまに 当社では、 ;を頂 社頭、高岡古城公週しての諸祭典のでは、初詣並びに N ており 賑々 ŧ

した。 れるようになって参りま堪えない提灯が多くみら 風雪により、 しかしながら、 使用するに 長年の

崇敬者(会社・個人・R神徳の昂揚を図るべく、 そこで、 今後、 更なる御後、境内の

十月三十日に来社され、奉納奉告祭を執り行いました。

心より厚く御礼を申し上げます。

当神社崇敬奉賛会員・あけぼの敬神講員の藤川勝喜氏が、

茲に、

清原啓一作

「雄鶏」(油絵) 壱点

何卒ご理解を頂き、



※貴社名・ 芳名をお入れ致します あけぼの敬神講 側面:例



11 射水